

「将来の夢・希望」②

「一段落目」今までどんな夢を持ったことがあるか

(例)

一冊の小説が、私に世界を示してくれることがある。今まで知らなかったような人間が、境遇が、思想が、この世界にあることを教えてくれた何冊かの本は、今の私の精神を形作っている大事な私の一部だ。それは、ファンタジーであったり、ミステリーであったり、ヒストリーであったり、ラブストーリーであったり、ジャンルはいろいろ異なっているけれども、私の知らない情報を、喜怒哀楽を織り交ぜた物語に乗せて、私の脳に伝えてくれる。私も、いつかそんな物語を書いてみたい。

「二段落目」自分の夢について思うこと

(例)

文章を書くのは好きな方だ。作文の課題を出されても困ることはあまりないし、どちらかというと楽しくかける。友達にメールを送ったりするのも好きだ。自分の体験したことや思うことを文章にして表現するのはとても面白いし、けっこう得意なのではないかと思っている。でも、物語を作り出すのは、それとは違う能力がいるようだ。有りもしないことを見てきたかのように書くには、嘘つきの才能が必要だ。ところが私は嘘が下手だ。割と正直に、思っていることを言ってしまう性格で、遅刻の言いわけとかに作り話を考えることができない。将来小説家になろうと思うなら、ほら話ができるようにならなければならない。

「三段落目」本当に自分がやりたいことは何か

(例)

だが、私にまだ物語が書けないのには、もつと大きな理由がある。私には、誰かにとって有益で魅力的な情報を伝えられるような、そういう知識がない。中学生なのだから当たり前だとは思っている。中学生に何かを教えてもらいたいと思う人間は、あまりいないだろう。それでも、中学生にしか分からないこと、感じられない感情とかはあるのかもしれない。だから、そういうものを書けばいいのかもしれないけど、それが思いつかない。私も、毎日いろんなことを感じ、いろんな感情を持ち、悩んだりすることもある。個人的なことに限らず、社会的なことについても、ニュースを見たり、本を読んだりして、いろんな思いを持つ。だけど、それらはまだとても漠然としていて、モヤモヤ、グチャグチャしていて、今のところ、とても筋道を立てて語れるようなものではない。自分の考えがまとめられない。それはやはり、私にまだ、いろんな知識が足りないからなんだろうと思う。知識を蓄え、考えをまとめ、自分ならではの価値観や思想のようなものができた時、私は本当に書きたいことを見つけられるのだと思う。

「四段落目」結論・まとめ(自分の意見)

(例)

いつかは、人の心を動かす小説を書きたい。だから、その時まで、今はもつといろんな体験をし、もつといろんな本を読み、知識を身につけていこうと思う。